

NVC Monthly

寝屋川映像同好会会報

第2号(090710)

発行 竹田 幸男

同好会ニュース

7月例会開催

7月10日(金)市民活動センター子供室で開催。(詳細は例会の窓参照)退院された竹下会員もまだ体調が不安定で今回も欠席。

早くよくなれることを皆さん祈っています。



今年も天の川七夕まつり

恒例の交野市民手作りのお祭りが今年も私市周辺で開催されました。

映像同好会からは新井、小笠原、竹田の3名が参加、どのような映像になるか楽しみです。



例会の窓

平成21年7月例会

日時：平成21年7月10日(金) 13:30 - 16:45

場所：寝屋川市市民活動センター(市民会館4F) 子供室

出席：天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹嶋 竹田 谷 田淵 9名

欠席：竹下 (50音順・敬称略)

例会次第(今回の要約竹嶋氏)

1. 会報の発行体制について

- ・例会時の書記：竹嶋(代理：小笠原さん)が担当する。
- ・情報コーナー：天野さん・新井さんが担当する。
- ・ニュース・感想文・次回のお知らせ：適時全会員から提供

以上、例会終了後1週間以内にまとめて竹田さんにメールすること。

今回は、第2号(090710)として発行する。

2. 会員の当面する問題点報告や質疑応答

Q：ビデオカメラ(ビクター)の操作部が壊れた。買い替えしたい。

何がよいか。SDカード式はどうか。(梶本さん)

A：DVCは、今となっては貴重品なので先ずメーカーのビクターに聞いて見て修理することをお薦めする。

3. 作品の映写と検討

(1)「故郷(ふるさと)を想う」(7分) 小笠原さん

- ・湖風と潮風の違いが画面でわかればもっとよい。
- ・自分の想いを画面に出そうとしていることが伝わる。すばらしい。
- ・テロップの白文字、トランジションのスムーズさ、などが改良されるとよい。

「追補：風景が美しすぎるので潮風をどうやって表現するか。たとえば海岸に打ち上げられた海藻や貝殻のアップ、海岸に干された魚などで表現してはいかがでしょう。ナレーションは表情と共に最初に集中したが、ロケ地の切り替わりの場所等にも分散しては如何でしょうか。(竹田)」

(2)「東映太秦映画村」(11分30秒) 天野さん

・NHKのハイビジョン放送を録画再生し、その画面をビデオ撮影して作品に取込んだアイデアがよい。参考になった。

「追補：前作より引き締まったものになっていた。最後まで画面で説明せず、切られた後に余韻が残るためだと思います。(竹田)」

(3) 「三室戸寺・アジサイ」(5分30秒) 谷さん

- ・アジサイの花の色の組み合わせがよい。
- ・手前の花のアップに遠くの花を入れたアングルがよい。

自分の感じたことを表現(テロップ、ナレーションなど)されると、もっといい。最初に花のフォーカスイン(?)を試してみたらどうか。

「注釈：カメラにマニュアルフォーカス機能があれば、最初ピントがぼけた状態にしておき、ゆっくりとピントを移動して合わせていくことを言われたと思います。三脚が使えない状態では操作しにくいと思いますが、一つの方法はマニュアルフォーカス状態にしておき、わざとピントをぼかした状態にしておき、撮影を始めてから「オートフォーカス」に切り替える、という方法は如何でしょうか。(竹田)」

(4) 「天の川七夕まつり 二〇〇九」(13分50秒) 竹田さん

- ・作品の長さを目標10分で編集中。

「自己注釈：私としては驚異的な2日間で試作品を作りました。完成作品は10分にするつもりです。録画は都合でDVCAAM(ソニーのDVの上級の業務用記録方式)で記録したところ、例会会場では同期がうまくかからず画面が流れました。帰ってからNV-GS500(例会で再生に使ったものと同型品)、およびNV-GS200で再生したところ、いずれも問題なく再生できました。DVCAAMは安定に記録再生するためにトラック幅を広げていますが、そのためにテープスピードがDVの50%増しになります。規格が違うのでDVカメラで再生できなくても不良ではなく、保証範囲外でしょうが、できるものもある、ということは再検討する必要もありそうです。(竹田)」

4. その他

(1) 次回例会

- ・8月7日(金) 13:30～ 映写カメラ担当：竹嶋
(8月の第2金曜日の14日は、お盆にかかるため)

(2) 忘年会予約：

- 12月11日(金) 17:00～ 於：松心会館1階「けやき」
(寝屋川市民会館で12月度の例会後、移動)

実験レポート

外付けハードディスクを活用する時の 問題点と対策

天野 忠一

目的

パソコンには、外付けハードディスク（以降HDD）が接続されて、使用されることが多いのですが、使い方によっては思いもよらぬトラブルが起こることがあります（HDDが故障したわけではありません）。

どのような場合が考えられるか、私が体験した一現象について検証してみたいと思います。

現状

パソコン内蔵HDD（Cドライブ）にアプリケーションソフト（以降ソフト）が通常インストールされます。データ保存も可能です。

多くのソフト・データを保存しますと次第に容量が不足し、外付けHDDが必要となり、場合によってはこの外付けHDDにソフトをインストールする場合があります（当然データ保存も可能）。

またデスクトップには、ショートカットを作成して、このショートカットでソフトを立ち上げて作業をすることが考えられます。

当方のパソコンも上記の環境で快適にパソコンの操作ができていました。

今回問題が発生した要因

パソコンのUSB端子は、全て外部機器が接続されており、接続したUSBハブにUSBメモリーを追加接続してデータ移行等の作業をおこないました。

結果

その後、今までどおり外付けHDDのショートカットでソフトを立ち上げようとすると、立ち上がりエラーが表示されたので、マイコンピュータよりドライブ名を確認しますとUSBメモリーを接続したために、外付けHDDのドライブ名が変わってしまっていました。このようにドライブ名が変わりますと、ショートカットより立ち上がらないだけでなく、動作しないソフトもあり、今回は画像編集ができませんでした。

検討（最初にやっておくべきだったこと）

まず新規に外付けHDDをパソコンに接続した時に、あらたに自動で与えられるドライブ名を、できるだけ後半のアルファベット文字に変更しておくことが必要でした（H・I・J・・・など）。

参考 Win XPの場合

<http://support.microsoft.com/kb/880411/ja>

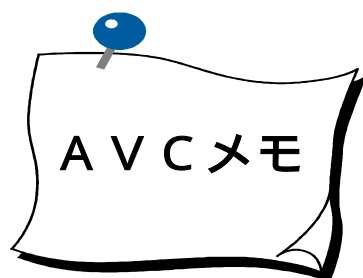
<http://support.microsoft.com/kb/880010/ja>

結論として

- ソフトは内蔵ハードディスク（通常C）にインストールすることが鉄則です。
- 外付けHDDの名前を最初に変更しておくことです。
- ショートカットは出来るだけ作らず、プログラムよりスタートすることです。
- ハブポートまたUSB端子に接続したHDD・USBメモリーの抜き差しはあまりしないこと。した場合は同じポートに挿入して使用することです。

以上の実施で、今回起こった問題点も以降発生することなく快適にパソコンが動いてくれることでしょう。

ご存知なかった方はご参考までに。



DV（デジタルビデオ）方式に思う

竹田 幸男

DV方式は1994年に規格が制定され、1995年から製品が発売されました。当初SonyのDCR-VX1000やPanasonicのNV-DJ1などがまず発売されました。DVは初めてのデジタル記録のビデオカメラで、それまでのアナログ式のビデオの、「コピーするごとに画質が悪くなる」から、「何回コピーしても画質が悪くならない」夢のビデオとして、規格の発表から製品の発売まで強烈な期待感があり、「本当に商品が出るのだろうか」という危惧の中でのスタートでした。

今、規格が制定されて15年で、一般用のカメラがもう手に入らない、ということは、あまりにも短期間に規格が陳腐化したことに驚きを禁じ得ません。

DV方式はデータを約5分の1に圧縮していますが、圧縮はフレーム内圧縮と言って、1秒間に約30フレーム（正確には29.97フレーム/秒）つまり1秒あたり約30コマの映像の1コマごとに、他のコマとは関係なく圧縮しているので、映像のどこで切っても良いようになっています。これが編集がしやすいと言われるゆえんで、MPEG2などではフレーム間圧縮と言って、たとえば15フレームを1グループとして最初の1コマはすべての画素をデータとして記録しますが、その後は最初の1コマとは違う部分だけのスカスカの映像を記録します。つまり全く動かない絵は、最初の1コマだけ絵があって次の14コマは真っ白という訳です。このような方法で記録するデータ量を圧縮（データ量を少なく）しているので、再生するときや、それを編

集するときにパソコンのパワーの大きいものがが必要です。これがさらに進歩したMPEG4 - AVCHDではさらにパソコンのパワーが必要となり編集も困難になります。

DVでは標準画質なので横720ドット×縦480ドット、かけ算して約35万画素ですが、ハイビジョンになるとこれが横1920ドット×縦1080ドット、207万画素強となり、画素数の比較だけで約6倍になります。つまりDVからMPEG2やAVCHDに代わったために処理のためにパソコンのパワーが何倍も求められた上、さらに画素数も何倍にも増えて相乗したパワーを必要とする二重苦の状態になります。

私は何時も感じていることですが、DVで撮影編集した作品をDVDにすると画質が低下するとともにコントラストも低下するようです。方式を変換するのですから、変換ロスもあり、またMPEG方式独自のノイズも加わりますので（木の葉とか、水しぶきなど細かい模様や動きの激しいものにはノイズが目立ちます）、ノイズを少なくするフィルターも掛けられていると思われ、（この辺は勉強不足で詳細はお伝えできませんが）そんなことが重なってコントラストが低下していると思います。

手元にNV-GS200というDV方式（テープ式）のビデオカメラがありF1.8で10倍のズームレンズ、1/6型の3CCDを持っています。

SDR-S100というビデオカメラがあり、これもF1.8の10倍ズームレンズを持ち、1/6型3CCDを持っています。この方はSDカードに記録するためにMPEG2方式で記録しています。レンズとCCDの大きさから、同程度の性能を持っているはず、と思いますが、同じ対象を撮影してみて、どうしても後者の方がピントが甘く、コントラストが弱く感じるのです。MPEG方式の宿命なのかも知れません。DVDを記録媒体にするビデオカメラでも同じことだと思います。では、今のデジタル放送・ハイビジョン放送はMPEG2じゃないか、といわれましょうが、彼らは、カメラだけでも我々の数十倍、数百倍の値段のものである、ということで、レンズにしろ記録系にしてもコーデック（符号化と復号化）の過程にしても、とにかく桁違いに金のかかった物を使った圧倒的にきれいな「原画」を使っているのです。記録、再生の時に多少映像が劣化しても、まだまだ我々のものを引き離してあまりあるクオリティが残っているので、きれい見えます。

こうして考えると、DVという方式はドット数も少なく、ドット数で比較するとハイビジョンとは雲泥の差と思われそうですが、我々のプアーな装置でも方式的に原画のクオリティをあまり落とさないで記録再生できるのではないかと、ということ。一方ハイビジョンは強い圧縮によって方式的に劣化しやすいので、結局我々が使った場合ドット数の差ほど両者の大きな開きを感じられない、ということのように思われます。

このように考えると、DVという方式をもっと大事にしてやりたいものと思います。